

第2回8月 東大本番レベル模試 英語採点基準

記述問題の採点は問われた内容にほぼ正しく答えているかどうかで判断することを原則とし、表記上の些細なミス（例えば、iの点やtの棒の脱落など）は減点しない。

配点表

大問	小問	配点	小問数	小計	大問ごと
1	A 要約	10	1	10	22
	B(ア) 記号	2	5	10	
	B(イ) 記号	2	1	2	
2	A 英作	12	1	12	22
	B 英作	10	1	10	
3	A 記号	2	5	10	30
	B 記号	2	5	10	
	C 記号	2	5	10	
4	A 記号 (完答)	3	4	12	24
	B(ア) 和訳	4	1	4	
	B(イ) 和訳	4	1	4	
	B(ウ) 和訳	4	1	4	
5	(A) 説明	4	1	4	22
	(B) 和訳	4	1	4	
	(C)(ア) 記号	1	5	5	
	(イ) 記号	3	1	3	
	(ウ) 記号	3	1	3	
	(エ) 記号	3	1	3	
合計					120

【1】 -A (10点満点)

【例1】

上手な描写はプロの作家にとっても易しいことではない。重要なのは、言葉による説明で結論を押し付けるのではなく、具体的な情報を与え、生き生きとしたイメージをすばやく読者に見せることである。(91字)

【例2】

すぐれた書き手は言葉で絵を描くことができる。良い描写は具体的で映像的だが、弱い描写は抽象的で説明的である。説明的なものは結論を提示するだけだが、映像的なものは直接的で鮮明な絵を生み出す。(93字)

必須項目 (10点)	<p>① 「すぐれた作家はものごとをどう<b>描写</b>すれば読者の目に見えるようになるかを心得ており、<b>言葉で絵</b>を作り出す」(4点)</p> <p>Good writers know how to <b>describe</b> people, places, things, and actions so that the reader can see them too. They create <b>pictures with words</b>.</p> <p>Any experienced writer should be able to write decent <b>description</b>.</p> <p>▶ 「<b>描写</b>[する]」(<b>describe / description</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。 ○ 「描く／表現[する]／説明[する]」は「描写[する]」と認める。</p> <p>▶ 「<b>言葉で絵</b>を作り出す」(<b>create pictures with words</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。 × 「言葉」だけ、あるいは「絵」だけでは「言葉で絵を作り出す」と認めない。 ○ 「ことば／語／語句／単語／文／文章／書くもの」は「言葉」と認める。 ○ 「絵画／映像／画像／<u>イメージ</u>」は「絵」と認める。 × 「写真／想像／印象」は「絵」と認めない。</p> <p>② 「良い描写は具体的で<b>映像的</b>だが、弱い描写は抽象的で<b>説明的</b>である」(4点)</p> <p>Good description is fast, specific, and <b>showing</b>. Weak description is slow, abstract, and <b>telling</b>.</p> <p>▶ 「<b>映像的</b>」(<b>showing</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。 ○ 「目に見える／視覚的／具体的」は「映像的」と認める。 × 「写真的／印象的／直接的／見せること」は「映像的」と認めない。</p> <p>▶ 「<b>説明的</b>」(<b>telling</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。 × 「遅い／ぼんやりした／あやふやな／弱い／言うこと」は「説明的」と認めない。</p> <p>③ 「説明的なものは<b>結論</b>を提示するだけだが、他方、映像的なものは鮮明な絵を生み出す」(2点)</p> <p>Telling fails to create an immediate and vivid mental image. It simply offers a <b>conclusion</b>, which readers may find difficult to accept because it's not their <b>conclusion</b>. Showing, on the other hand, creates a perfectly focused picture that is both vivid and direct.</p> <p>▶ 「<b>結論</b>」(<b>conclusion</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。 × 「決断／決定／判断／判定」は「結論」と認めない。</p>
---------------	--

- ① 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。
- ② その他、誤訳、不適切な表現は程度に応じて1～2点減点。
- ③ 字数制限を満たさないものは0点。

【2】－A (12点満点)

【例1】

The man is checking the time on his smartphone, although he has a fancy watch on his wrist. In fact, he rarely looks at his watch these days because he is quite used to using his smartphone for many different things, such as checking the time, consulting a map, and even reading a book. He knows his watch is now almost useless to him, but he cannot give up wearing it. Longtime habits die hard. (75 語)

(男性は手首に高級な腕時計をしています。スマートフォンで時間を確認しています。実際、彼は最近はずっと腕時計を見ません。というのも、スマートフォンを使って様々なことをするのにすっかり慣れているからです。たとえば、時間を確認したり、地図を調べたり、本を読んだりさえします。彼は自分の腕時計が今やほとんど無用であるとわかっていますが、身につけるのをやめることができません。長年の習慣はなかなか取り除けないものです)

【例2】

A businessman is worried about what time it is so that he won't be late for a meeting with a client. He prefers to check the time on his smartphone rather than on his watch, because he can check the time and his schedule all at once. However, he wears a nice watch while doing business. In his business, many clients appreciate fine watches and wearing one can help to break the ice. (73 語)

(あるビジネスマンが顧客との打ち合わせに遅れないよう、何時なのかを気にしています。時間と同時にスケジュールもチェックできるので、彼は腕時計よりスマートフォンで時間を確認するほうが良いと思っています。それでも、彼は仕事では良い腕時計をします。彼の仕事では、良い腕時計の価値がわかるお客様が多く、良い腕時計をすることで会話の糸口をつくる助けになるのです)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。
2. 語数制限 (60 語～80 語) を満たさないものは**0点**。
3. 内容面で以下のポイントを満たさないものは、それぞれ該当の点数を減点。

ポイント1 「(ある) 人」 (3点)

\* 「人」にまったく触れていないものは3点減点。

ポイント2 「時刻」 (3点)

\* 「時刻」にまったく触れていないものは3点減点。

ポイント3 「スマートフォン」 (3点)

\* 「スマートフォン／携帯／電話」にまったく触れていないものは3点減点。

ポイント4 「腕時計」 (3点)

\* 「腕時計(watch)」にまったく触れていないものは3点減点。

【2】－B (2点×5=10点満点)

【例1】 Economic growth in the other Asian countries is likely to result in more people visiting Japan. Therefore, we have to develop strategies to welcome more travelers.

(他のアジア諸国の経済成長の結果、日本を訪れる人々がますます増える可能性が高い。したがって、私たちはより多くの旅行者を歓迎する戦略を作り上げなければならない)

【例2】 As the other Asian countries expand their economic power, more and more people are expected to visit Japan. We need to build a system to accommodate more tourists.

(他のアジア諸国が経済力を拡大するにつれて、ますます多くの人が日本を訪れると予想される。私たちはより多くの旅行者を受け入れるシステムを築く必要がある)

【例3】 As Asian nations increase their economic strength, it is expected that the number of foreign tourists visiting Japan will keep increasing in the years to come. Therefore, we need to find better ways to entertain more tourists.

(アジアの国々が経済的な力を増大させるにつれて、日本を訪れる外国人旅行者の数が近い将来ますます増え続けることが予想される。そのため、私たちはより多くの旅行者をもてなすさらに良い方法を見つける必要がある)

【例4】 We can expect the number of travelers visiting Japan will also continue to increase along with the growing economic power of Asian countries, so we have to build up a system which can attract more travelers to Japan.

(アジア諸国の経済力が増大するとともに日本を訪れる旅行者の数もまた増え続けることが予想されるので、私たちはより多くの旅行者を日本へ引きつけることができるシステムを構築しなければならない)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。

2. 次の区分を目安に得点を配分する。

- ① 「アジア諸国の経済力が高まるにつれ」 (2点)
- ② 「訪日旅行者数は今後も増加する」 (2点)
- ③ 「…ことが予測されるので」 (2点)
- ④ 「私たちは～をつくっていかなければならない」 (2点)
- ⑤ 「より多くの旅行者を取り込む仕組み」 (2点)

【4】－B（ア）（4点満点）

<問題部分>

It is morally as bad not to care whether a thing is true or not, so long as it makes you feel good, as it is not to care how you got your money as long as you have got it.”

<例1>

自分が満足できている限り、あることが真実であるかどうかはどうでもいい、というのは、金が手に入るならどのように手に入れようと関係ない、というのと同じく、道徳的に間違っている。

<例2>

気分をよくしてくれる物事であれば、それが本当かどうかは気にしないというのは、お金が手に入っていればどうやって手に入れたかは構わないというのと同じくらい道徳に反することだ。

区分	配点	具体事例
It is morally as bad not to care ~ as it is not to care ... ～を気にしないのは…を気にしないのと同じくらい道徳的に悪い	1点	×It が not to 以下を指す形式主語だとわかっていないものは不可。 ×as ~ as が同等比較構文だとわかっていないものは不可。 ×care が他動詞だとわかっていないものは不可。
whether a thing is true or not あることが本当かどうか	1点	×care の目的語となる名詞節だとわかっていないものは不可。
so long as it makes you feel good あなたの気分をよくする限り	1点	×so long as ... が副詞節（条件）だとわかっていないものは不可。
how you got your money as long as you have got it 金（かね）が手に入る限りどうやって金を手に入れたか[を気にしない]	1点	×how 以下が名詞節だとわかっていないものは不可。 ×as long as ... が副詞節（条件）だとわかっていないものは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（イ）（4点満点）

<問題部分>

does science do us a disservice in fixing our arrogance?

<例 1>

科学は我々の傲慢さを正す役に立つのではないか？

<例 2>

科学は人間のうぬぼれを修正することで我々に害をなすだろうか？

区分	配点	具体事例
does science do us a disservice ? 科学は我々に害をなすのか	2点	○修辭疑問（反語）だとわかっているものは「(いや) 科学は我々に役立つ」など、意識も減点しない。 ○do a disservice の意識は「害を与える／役立たない／不利益をなす」など広く認める。
in fixing our arrogance 我々の傲慢さを正すことで	2点	○in -ing の訳は「～する時／～する場合／～すれば／～することで／～しながら／～することにおいて」など可。 ×fix に「固定する」は不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（ウ）（4点満点）

<問題部分>

To find that our ancestors were also the ancestors of apes ties us to the rest of life and makes possible important reflections on human nature.

<例 1>

我々の祖先が類人猿の祖先でもあったと知ることは、我々を他のすべての生物と結びつけ、また、人間の本質についての重要な考察を可能にしてくれる。

<例 2>

人間の祖先は類人猿の祖先でもあったということを知ることにより、人間は他の生命と結びつき、人間の本質への有意義な考察が可能になる。

区分	配点	具体事例
To find that our ancestors were also the ancestors of apes 我々の祖先もまた類人猿の祖先だったと知ることは	1点	×To find ~ apes が文の主語となる名詞用法の不定詞だとわかっていないものは不可。 ×that ~ apes が名詞節だとわかっていないものは不可。 ×apes に「哺乳類」は不可。
ties us to the rest of life 我々を他の生命と結びつけ	1点	×ties が文の述語動詞だとわかっていないものは不可。 ×us の訳抜けは不可。「人間、人類」なども可。 ○life は「生物/生命/命」など可、×「人生/一生」は不可
and makes possible ~ ~を可能にする	1点	×and が ties と makes を結ぶ等位接続詞だとわかっていないものは不可。 ×makes possible ~ が SVOC 型だとわかっていないものは不可。
important reflections on human nature 人間の性質に関する重要な考察	1点	×important を reflections に掛かる形容詞ととっていないものは不可。 ○reflections に「考察/反省」は可、×「反射/反映」は不可。 ○on は「~に関する/~に対する/~への/~の」など可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(A) (4点満点)

<問題>

下線部 (A) に関して, “that” が指すものを明らかにしながら, その内容を日本語で説明せよ。

**I wish I had thought of that.**

<解答例>

父親が失業中であると正直に言う, という手があったのに, 気づかなかった。

<別解例>

本当のことを言うことを考えついたらよかったんだが。

次の (1) (2) が必須項目。

(1) **I wish I had thought of** ~ (～を思いつけばよかった) に相当するもの (これがないものは**2点減点**)

- 「～という手があった」でもよい。
- 「(本当のことを) 言えばよかった/言うべきだった/言わなかったことを後悔した」も可。

(2) **that** の内容 (これがないものは**2点減点**)

- ×「あれ/それ/そのこと」は不可。
- **that** は「父は失業中だと言うこと」を指す。
- 「本当のことを言う」でよい。

【5】－(B) (4点満点)

<問題>

下線部 (B) を本文に即して日本語に訳せ。

**Things were looking up.**

<例 1>

ものごとは良い方に向かっていた。

<例 2>

事態は好転してきた。

区分	配点	具体事例
Things 事態 [状況/立場]	2点	○Things は「ものごと/事態/状況/事情/立場/なりゆき/これから/(自分の) 存在」など可。 ○「こと」は減点しないが, ×「物/もの」は不可。
were looking up は上向いていた	2点	○look up は「(事態が) 上に向く/よくなる」という意味であれば広く認める。 ×look up に「上を見る/見上げる」は不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し, 区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳, 訳漏れ, 英語のまま, 不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。